



# カテキヨは見た



はまゆう

## はじめに

---

これまで20年以上の家庭教師経験の中で、様々な生徒、親御さん、塾講師などと接してきました。その中で印象に残ったこと、感じたこと、うれしかったこと、腹が立ったこと、などなど、思いつくままに書いてみました。

ブログのように、不定期で更新していきます。もちろん、個人情報晒したりは致しませんが、本音で書いていきます。

はまゆう

## お金の無駄遣いと時間の無駄遣い

---

以前、教室で授業をしていると、隣のブースから他の生徒と先生の会話が聞こえてきた。

その生徒は、上智を滑り止めにして東大を受け、両方に合格したようだ。

その会話の中で、「私も、私の友だちも、スマホを持っていないんです。未だにガラケーで。特に持ってなくても不便じゃないし」と、明るい声で話してた。

その話を聞いて、今から10年以上前に受け持った生徒のお母様の話を思い出した。

その生徒も女子で、都内の超有名私立小学校に通っていて、お父様は大学教授も務められたお医者様。もちろん、自宅は豪邸。

その生徒は、テレビゲームや携帯ゲームを持っていなかった。その理由を、「かわいそうだと思うんですけど、この子のためにならないと思うので」と言っておられた。

どんな人間でも、みんな1日は24時間しか与えられていない。その時間を、何に使うか。お金を無駄遣いしても、そのお金は働けばいくらでも取り戻せる。しかし、タイムマシンが発明されていない現代では、無駄に過ごした時間は取り戻せない。

## 3000円の電球

---

今から十数年以上前に、都内のとある進学塾の人事担当者と話をする機会があった。

その際、その担当者は、「うちでは若い講師を採用する際には、『生徒がどんなに騒いでも、絶対に叱らないでくれ』と釘を刺している」と話していた。

「どうしてですか？」と聞き返すと、次のように答えた。

「我々が、経験豊かな実力講師を配置して、全力を傾けて指導しているのは、上位5%の生徒、一番上のクラスの生徒です。この子たちが御三家・四天王（開成、筑駒、麻布、武蔵）に合格してくれることで、うちの宣伝になるからです。

うちの教室では、1本3000円の蛍光灯電球を使っています。生徒の目にやさしい光だからです。全ての教室の電球代だけでも、かなりの経費になります。もしこれを生徒が割っても、絶対に叱りません。これだけ膨大な経費をかけられるのは、上位5%に入れない下位の生徒が『お客様』として、授業料を払ってくれているからです。

上位の生徒を確実に合格させることと下位の生徒をつなぎ止めること、この連立方程式を解くのが、塾経営で最も重要なテーマです。だから、下位の生徒がどんなに騒いでも、電球を割っても、絶対に叱りません」

大手の進学塾ともなれば、生徒数も従業員数も膨大で、多額の経費がかかるのは当然。ましてや、株式を公開している会社であれば、毎会計年度ごとの経営実績で株価が変動するし、買収の危険にも晒される。売り上げをあげ、経営を安定させる要請は、他の民間企業と何ら変わらない。

だから、この担当者の本音は、少し極端ではあるものの、なんら間違っているとは思わないし、この業界の本音を端的に表していると思う。個人経営のこぢんまりした塾と、従業員だけでも数百人かかえ、多くの教室を展開する大手の進学塾とは、おのずと経営姿勢が異なって当然だろう。

膨大な生徒を指導する過程で得られる様々なデータや充実した教材など、大手の進学塾に通わせるメリットはたくさんある。しかし、ただ通うだけで、上位の生徒を支える「お客様」になってしまっただけではいけない。集団授業に向いている生徒、少人数授業に向いている生徒、個別指導に向いている生徒、タイプは様々である。子供の適性を見極め、「お客様」にならないよう、適切な手段を選ぶことが肝要だ。

## カテキヨは見た

<http://p.booklog.jp/book/85723>

著者：はまゆう

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/golgo711/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/85723>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/85723>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ